

あいち農産物生産流通レポート

平成18年7月号

情報サロン		
・ 好天の中、知事が一宮市でお田植え	(園芸農産課) -----	1
地域トピックス		
・ 「花と緑のときめきフェスティバル」を今年も開催します！ - 第39回愛知県山村花き品評会の一般公開 -	(豊田加茂農林水産事務所) -----	2
東日本情報		
・ とうもろこしの入荷動向について	(東京事務所) -----	3
西日本情報		
・ 地域団体商標制度(地域ブランド)説明会を開催しました	(食育推進課) -----	5
食育だより		
・ 「ふるさとがあなたを作る」と題した講演会が開催されました	(東京事務所) -----	7
青 果		
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	-----	8
・ 名古屋・東京市場における青果物の7月の見通し	-----	9
花 き		
・ 切花・鉢花の7月の見通し(県内市場)	-----	21
輸出入		
・ 主要農産物の輸出入実績(2006年4月)	-----	25
関連指数	-----	26

本書の内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所物産情報グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6417

好天の中、知事が一宮市でお田植え

平成18年6月17日（土）農業祭お田植えまつりが一宮市で開催され、好天に恵まれた中、神田知事が早乙女らとともに早苗を植えました。

このお田植えまつりは、明治25年に始まり、以来太平洋戦争中も中断されることなく続けられている伝統行事で、114回目となる今回は、愛知西農業協同組合が主催し、組合本店東側の水田で多数の来賓を迎えて盛大に開催されました。

当日は、好天に恵まれ、まず献穀者と来賓が3株ずつ本県育成の「あいちのかおり」の早苗を手植えしました。続けて10名の早乙女が踊りを披露したあと、歌に合わせてお田植えを行い、まつりを盛り上げました。

お田植えのあとの来賓の祝辞で、神田知事は「私自身もお米大好き人間」などと、米に対する強いこだわりを随所に滲ませ、米づくりに携わっている方々への感謝の気持ちを表すとともに、『大きな政策課題となっている「食育」で中核的役割を果たすのも間違いなく「米」であろうと思う。』と述べました。

続いて祝辞に立った谷一宮市長も地産地消の推進や学校給食への地元産米の供給の現状について触れ、地域にとっての米の重要性を強調しました。



今回植えられた早苗は、今後、献穀者や農協関係者により入念に管理され、10月には収穫祭を経て皇居へ献納される予定です。

「花と緑のときめきフェスティバル」を今年も開催します！
- 第39回愛知県山村花き品評会の一般公開 -

愛知県の中山間地域で栽培されている色々な花と緑のできばえを競う「第39回愛知県山村花き品評会」を、愛知県と中山間地域の市町村、関係団体が中心となって今年は豊田市稲武地区で開催します。

この品評会には、中山間地域で生産された切花・鉢物・枝物など約600点が出品され、午後から即売も行われます。

また、会場は地元の小中学生が心を込めて育てた花で飾られ、花と緑に触れあえる催しや、いつまでも色あせない「プリザーブドフラワー」を用いたフラワーアレンジメント教室、「スタンプラリー」など皆様に楽しんでいただける数々の催し物を予定していますので、ぜひお誘い合わせの上、ご来場ください。

日 時

平成18年7月26日（水）（参加無料）

一般公開 午前10時00分から 午後 2時30分まで

即売会 午後 2時45分から 売り尽くしまで

場 所

豊田市稲武体育館（道の駅「どんぐりの里」より徒歩10分）

豊田市桑原町下清泰地251（稲武中学校 隣）

主な内容

- ・地元の農産物を活かした「農の生け花」、東栄まゆ花会によるお蚕の繭を用いた「まゆ花」の展示・販売、「花の絵手紙」の展示のほか、「JA営農部や生産者による地元農産物の直売、森林組合の間伐材利活用の展示・即売など、多彩な催し物を予定しています。
- ・フラワーアレンジメント教室（先着50名、参加費 1,000円）、絵手紙の作成実演・指導講習会（無料）、豊田市主催のスタンプラリー（参加無料、先着300名に参加賞）及び、稲武商工会主催の花の種子無料配布（先着200名）が予定されています。
- ・郷土芸能（踊り）の稲武音頭、稲武小唄の実演も披露されます。

お問い合わせ

第39回愛知県山村花き品評会実行委員会事務局

（愛知県豊田加茂農林水産事務所農政課内）

電話 0565-32-7361（内線338）



審査風景（新城市2005）



知事内覧（新城市2005）

とうもろこしの入荷動向について

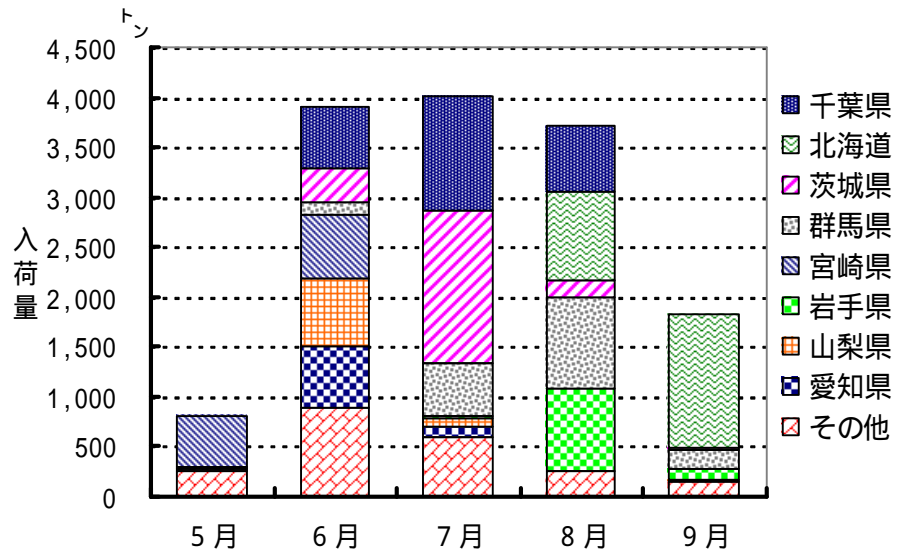
東京都中央卸売市場へ入荷するとうもろこしは、5月は宮崎・長崎、6月は山梨・宮崎・千葉・愛知、7月は茨城・千葉・群馬の関東産地、8月は関東産地に加えて北海道・岩手、9月は北海道を中心に、リレーされる。

愛知産のとうもろこしのは入荷は6月中旬から最盛期を迎え、7月中旬頃まで続く。特に6月は愛知産の入荷が全体の2割を占め、関東圏でも多く消費されていることがわかる。

市場の統計では、「とうもろこし」として一括取り扱われており、品種ごとの入荷量や取扱高のデータはないが、大田市場への入荷は、「味来」など粒の黄色いイエロー系に「ピーターコーン」など白と黄色の粒の混じったバイカラー系から数年前から変わりつつある。

味来は糖度も高く、食感の良い品種で、近年、シェアを伸ばしており、スーパーなども特に「味来」と品種名を表示しているところもある。

味来のほかにも、高糖度のイエロー系の品種として、ゴールドラッシュ、サニーショコ



東京都中央卸売市場へのとうもろこし産地別入荷量の推移(平成17年)

東京都中央卸売市場への産地別入荷量上位10都道府県

順位	産地	数量(トン)	シェア
1	千葉	2,443	16.8
2	北海道	2,295	15.8
3	茨城	2,027	14.0
4	群馬	1,777	12.2
5	宮崎	1,161	8.0
6	岩手	948	6.5
7	山梨	789	5.4
8	愛知	730	5.0
9	埼玉	642	4.4
10	長崎	401	2.8
合計		14,529	100.0

ラ、きみひめ、恵味なども入荷しつつある。バイカラー系でも糖度の高い品種は入荷している。

現在、産地や種苗会社も品種を前面に出したPRを卸売市場や消費者に対して行っており、今後は、味来以外の品種も徐々に浸透していくものと考えられる。

県内の各産地は、消費者の嗜好に答えられるよう朝どりなどを行い、予冷をしっかりと行うなど品質保持に気を配っていただきたい。



山梨産とうもろこしの試食宣伝（大田市場）

大田市場に入荷している各産地のとうもろこし（平成18年6月中旬）



宮崎産（ゴールドラッシュ）



山梨産（甘々娘）



山梨産（ゴールドラッシュ、味来）



愛知産（味来）

地域団体商標制度（地域ブランド）説明会を開催しました

地域団体商標制度



5月23日 農業大学校にて

「商標法の一部を改正する法律」が平成17年6月15日に公布、18年4月1日より施行されました。これにより地域の名称と商品（役務）の名称からなる商標について、一定の範囲で周知されている場合には、農業協同組合や事業協同組合等の団体が地域団体商標として商標登録を受けられるようになりました。

この制度の説明会を、5月23日には愛知県農業大学校で、6月15日には産業貿易館で開催し、県内の市町村や、農業団体、商業団体等の関係者が多数出席しました。

これまでの制度について

地域ブランドの名称としては「地域名」と「商品（役務）名」を組み合わせた商標が用いられることが多いものの、これまではこのような商標は、原則としてそのままの形で登録を受けることできず、次のような問題点をもっていました。

これまでの制度の問題点

- ・ 全国的な知名度を獲得するまで登録を受けられないため、登録されるまでに他人の便乗を排除できない
- ・ 文字と図形の組合せたものを商標登録することとしていたため、他人が同一の文字を使用した場合でも、図形等が異なる場合や文字だけの使用は排除できない

新制度について

新制度では、「地域の名称」と「商品（役務）の名称」のみからなる商標が一定の範囲で周知されている場合には、事業協同組合、農業協同組合等が地域団体商標として商標登録を受けることができます。

新制度の概略

- ・ 商標登録を受けられる者は、事業協同組合、農業協同組合等の特別の法律により設

立された組合（法人）であり、その法律において、構成員資格者の加入の自由が担保されていること

- ・ 商標登録が受けられる地域団体商標の周知の範囲は、隣接都道府県に及ぶ程度に広く知られていること
- ・ 地域団体商標が商標登録された後に、登録要件を満たさなくなった場合は商標登録の無効審判の対象となること
- ・ 商品の品質の誤認を生じさせるような不適切な方法で登録商標を使用した場合には、商標登録の取消審判の対象となること
- ・ 地域団体商標の商標登録出願前から、不正競争の目的でなく、地域団体商標と同一又は類似の商標を使用している第三者は、その商標を継続して使用することができる



6月15日 産業貿易館にて

説明会では、「合併前の旧市長村名を地域名称にできるのか」「先に出願した者が有利になるのか」等、いくつかの質問が出ました。これに対し、地域団体商標の地域名として旧市長村名も認められること、周知性が重要な要件であり、先に出願する者が有利とはならないとの説明がありました。

6月15日の説明会では、全国で約460件の出願があったということに、満席の会場は高い関心を示していました。

制度を十分に理解することの必要性
地域団体商標として商標登録を受けることは、これまでの努力や成果を守ることになる一方、地域内で同じような商品（役務）が排除されるといった問題が生じ、混乱を招く可能性があります。この制度を十分に理解し、地域の技術、伝統を守るための活用方法を考える必要があると思われます。今回の説明会を契機として、制度が十分に理解され、地域ブランドの見直しと地域ブランドを用いた地域の活性化が図られることを期待しています。



満席となった会場

「ふるさとがあなたを作る」と題した講演会が開催されました

平成18年6月20日に、東京都有楽町のよみうりホールにおいて、「ふるさとがあなたを作る」と題して、東京農業大学の小泉武夫教授の講演会が開催されました。

小泉教授は「食文化論」が専門で食育にも取り組まれており、大変興味深い講演でしたので、その内容について紹介します。

ふるさとはいつの時代も人間の心の拠り所であり、ふるさとは人間を包んでくれる。ふるさとは人間が生きていく原点である。帰省シーズンには多くの人たちがふるさとへ帰っていくが、ふるさとの食べ物を食べることも帰省時の楽しみの1つである。子供の頃に食べた食べ物の味はいつまでも忘れることはない。ふるさとの味は一生忘れることのできない貴重なものである。

食は人間の生きる原点であるが、今の日本人は日本の食を忘れかけている。食育においては大人を教育することが必要である。子供は大人の作った食べ物を食べており、子供に責任はない。日本の食を正しい食に戻すのは大人の役割である。

日本人はもともと農耕民族であり、野菜や魚を食べてきた民族であった。それほど多くは肉を食べてこなかった日本人の食に、この40年位の間には肉を食べる騎馬民族の食が入ってきた。民族の食は、本来保守的なものであり、急激に変化するものではない。急激な食の変化は、これまで長い時間をかけて作られてきた日本人の遺伝子に逆らうことになる。40年前と比べて現在の日本人の肉と油の摂取量は約4倍にもなっている。これほどの急激な変化はこれまでになかったことである。このことが日本人の血中コレステロールや、血中脂質、尿酸値が高くなってしまった原因となっている。

和食が日本人のすばらしい心を作った。和食のよさはカロリーを取りすぎないこと、栄養のバランスが整っていること、食材のすべてが健康的なことなどがあげられる。今の日本はアメリカ的な消費に組み込まれてしまっている。食の文化はグローバル化されてよいものではない。食とは文化である。小売店の惣菜売場で売られているパック売りの惣菜には文化が感じられない。

地域、家庭が一体となって日本の将来を考えていくことが必要である。日本人の食のあり方を今一度考えていく必要がある。

本県では、年内を目途に食育推進計画を作成します。また、食育の推進等を行うボランティアを対象に講演会等を開催し、その活動を支援しています。当グループとしても今後も首都圏における食育に関する各種情報の収集と発信に努めてまいります。

愛知産青果物の動向

名古屋市中央卸売市場（品目：もも）

	入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	うち愛知産		
17年実績	1,767	488 (28%)	410	328	山梨 (46%) 和歌山 (22%) 長野 (6%)
18年見通し	1,700	-	400	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>朝晩の低温と曇天により生育は3日から7日遅れている。産地によっては小玉傾向だが着果は良く、作柄も良好である。ハウスものは原油の高騰により作付が減少している。</p> <p>7月の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>			<p>消費者は糖度と香りの高いものを好む。天候に左右される品目ではあるが、産地は味が安定したものを作って欲しい。また、機械選果を導入し、一定の品質を保って出荷して欲しい。消費を拡大するためには試食販売会等を行い、消費者においしさを実感してもらうのが効果的である。</p>		

東京都中央卸売市場（とうがん）

	入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	うち愛知産		
17年実績	864	280 (32%)	90	124	愛知 (32%) 神奈川 (27%) 岡山 (13%)
18年見通し	850	-	100	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知産は6月から入荷が始まった。沖縄産の入荷が終了となり、7月は本県と神奈川、岡山、静岡などからの入荷が中心となる。天候不順の影響で、各産地とも生育に遅れが出ている。</p> <p>全体の入荷量については前年並みの見込みで、価格をかなり上回る見込み。</p>			<p>愛知産のとうがんは、品質の良さから高値で取引されている。</p> <p>業務用の需要の割合が高いが、健康志向が高まっている中で、低カロリーであることをアピールして、一般家庭での需要も拡大していきたい。そのためにはいろいろな料理方法をPRしていくことが必要となる。</p> <p>出荷時においては引き続き若採りと表皮の粗毛の除去の励行により、高い品質の保持に努めて欲しい。</p>		

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
		全 国 平成12年 = 100				
		愛知県 平成12年 = 100				
全 国	16年平均	98.1	110.5	100.3	104.0	95.9
	17年12月	98.0	100.2	87.5	106.3	95.4
	18年 1月	98.1	126.1	99.9	106.3	96.1
	2月	97.8	111.2	99.2	106.6	96.0
	3月	98.0	104.4	96.2	96.3	97.2
	4月	98.3	109.0	91.3	106.8	99.0
	愛 知 県	16年平均	98.2	101.4	111.4	102.7
17年12月		97.5	94.3	105.2	103.2	94.1
18年 1月		97.6	122.9	92.5	104.3	98.0
2月		97.2	106.3	94.0	103.8	99.2
3月		97.5	99.8	94.3	103.1	102.2
4月	98.0	105.1	90.1	102.8	105.2	

項目 年月		農業物価指数 (平成12年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
全 国	16年平均	105.7	102.4	115.2	99.6	105.4
	17年12月	100.2	88.1	109.2	73.2	111.4
	18年 1月	107.8	87.2	145.4	91.5	106.9
	2月	106.3	91.7	126.3	103.2	107.4
	3月	104.0	91.9	114.9	94.6	106.4
	4月	106.2	92.0	122.0	104.1	107.2

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県企画振興部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単-品種、「コヒカリ」以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りん(ごふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
16年平均	2,633	189	203	632	567	270	178	310	205	570	632	181	486
17年12月	2,275	177	150	643	428	270	120	280	208	597	699	186	421
18年 1月	2,370	255	150	714	691	268	157	308	230	774	661	213	420
2月	2,247	194	146	621	523	261	167	296	220	638	568	166	443
3月	2,247	144	152	531	406	282	178	308	227	600	631	175	502
4月	2,247	186	197	538	359	290	195	379	220	486	683	187	511
品目 単位 年月	みかん	グレフ イル プ イツ	オレ ンジ	いちご	バナ ナ	キ ウフ イル イツ	緑(せ 茶ん 茶)	カ イ ネシ イ オン	き く	バ ラ	豚(口 肉 ス)	牛(口 肉 ス)	ま ぐ ろ
	1 kg						100g	1 本			1kg		
16年平均	555	316	378	146	245	690	618	162	174	316	235	785	470
17年12月	373	347	363	-	220	651	617	160	171	322	229	741	493
18年 1月	399	380	442	175	228	671	617	153	175	313	231	833	509
2月	410	393	390	168	242	603	617	156	176	326	229	760	498
3月	423	387	383	150	232	646	617	156	172	324	235	787	483
4月	-	350	378	123	250	643	617	160	173	321	231	741	493

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか	:	± 2 % 台以内
やや	:	± 3 ~ 5 % 台
かなり	:	± 6 ~ 15 % 台
大幅	:	± 16 % 以上



あいち農産物生産流通レポート 397
平成18年7月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6417